

1人の時間・隣人とワイワイ、使い分け

ソーシャルアパート人気

カフェや交流スペースが併設された賃貸マンション「ソーシャルアパートメント」が人気だ。マンション・ホテル運営のグローバルエージェンツ(東京・渋谷)は36棟を運営。空き率ゼロと好調なことから2021年度までに全国で70棟4000室に増やす。一人でいたい時と交流したい時を使い分け、一定の距離感を保ちながら入居者同士で交流できる点が20・30代に支持されている。

グローバルエージェンツ



広々としたキッチンとリビングの共用スペース(東京都江東区の「TWO RLD NEIGHBORS清澄白河」)

共用のキッチン・カフェ・BBQ…
程よく交流、若者支持

同社のソーシャルアパートメントは100超室の規模のものが多く、1棟につき平均10戸前後の物件が多いシェアハウスよりも多くの人数と接する機会があり、気の合う者同士でコミュニティを作りやすい。

17年春に開いた「TWO RLD NEIGHBORS 清澄白河」(134戸)は東芝の社員寮だった築30年超の建物を改装し、物件オーナーに代わって賃貸住宅として運用する。オープンから3カ月で全室埋まった。

部屋の大きさは16平方

メートル、価格は約1・3倍するが、「お金を投資して様々な人と交流したい」という人を集めた。(グローバル

は9万4000円台。エレベーターが止まらない階の部屋などは8万円台で貸し出し、収入のない学生でも住めるようにする。近隣の同規模サイズの賃貸住宅に比べると家賃は約1・3倍するが、「お金を投資して様々な人と交流したい」という人を集めた。(グローバル

エージェンツコミュニティデザイン部の広田章剛マネジャー)。

アパートの1階のカフェは入居者は月5000円分までは無料で注文できる。近隣住民との交流も深めてもらおうと、一般の人にも開放する。フリースペースのデザイナー加藤絢香さん(28)は「カフェではいろんな人と交流できる。風邪を引いた時には、教え切れないほどの清涼飲料水が届けられた」と話す。

このほか1階にはキッチン付のリビングスペースにワーキングスペース、ピリヤード場、東京の夜景が一望できるバーやペーキーコーナーを備える。ランドリーも設置する。

グローバルエージェンツは現在、東京・二子玉川や千葉県船橋市など36棟のソーシャルアパートメントを展開している。若者に人気で、空き室がすべ埋まるという。清澄白河の物件では入居者の男女の比率はほぼ1対1で、約30%は外国人。「仕事以外での交流の場を求める30代前後の社会人からの問い合わせが多い」(広田氏)。

同社は年10棟ずつ施設を増やしていく計画だ。